令和8年（2026年）
10
No.840

The Religion News
宗教新聞
https://www.religion-news.net

発行所 宗教新聞社
〒154-0021 東京都世田谷区
豪徳寺1-22-2　サカイビル2F
電話 03-5799-4815（代）
FAX 03-5799-4816
religion@sage.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00130-9-22704
ⓒ宗教新聞社 2026
購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

古都に息づく祈りと伝統

神奈川県 鎌倉市

鶴岡八幡宮例大祭

神奈川県鎌倉市の鶴岡八幡宮（吉田茂穂宮司）で、9月14日から16日にかけて例大祭が執り行われた。宵宮祭に始まり、例大祭、流鏑馬神事、鈴虫放生祭と続く伝統の三日間で、多くの参拝者で境内や参道は賑わいを見せた。

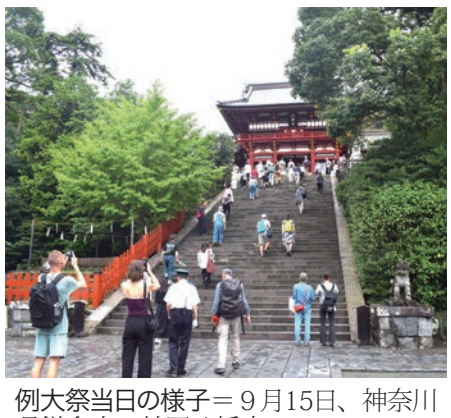
流鏑馬神事＝9月16日、神奈川県鎌倉市の鶴岡八幡宮（鶴岡八幡宮提供）

14日の宵宮祭に続き、15日午前10時からは例大祭が斎行された。当日は責任役員や氏子総代、松尾崇鎌倉市長、国会議員、関係者らが参列。今年は雨の影響で参進が見送られ、本宮（上宮）内では、吉田宮司以下、神職や巫女、八乙女が奉仕し、神事は厳粛に進められた。16日の鈴虫放生祭、また、午後1時からの神幸祭は雨儀にて斎行され、雨天のため御神輿の二ノ鳥居への渡御は見送られた。

16日午後1時には、源頼朝公の時代から800年以上の伝統を受け継ぐ流鏑馬神事（奉仕：弓馬術礼法小笠原教場）が催された。時折小雨が降る中、疾走する馬上から放たれた矢が的に命中するたび、観衆から歓声が上がった。夕刻5時には鈴虫放生祭が行われ、神前に供えられた鈴虫が神域の自然へと解き放たれた。放生会は仏教の不殺生の思想に由来し、中国天台宗の祖・智顗が漁民から魚を買い取って池に放した故事などに起源を持つとされる。

例大祭の期間中は神賑行事も行われ、永野貫玉社中、鎌倉国際華道協会による献華会、各地区による鎌倉囃子、宗徧流神奈川支部、池田宗房社中、裏千家淡交会鎌倉支部による献茶会のほか、北鎌倉女子学園コーラス部による合唱会、神童太鼓による和太鼓演奏、吾妻君香社中による日本舞踊、土肥会による焼亡の舞が奉納された。

一年を通して最も重要な祭事である例大祭は、古くは旧暦8月15日に行われ、文治3年（1187）、源頼朝によって放生会と流鏑馬が行われたことが『吾妻鏡』に記されている。また、頼朝が由比ヶ浜で千羽の鶴を放したとも伝えられている。現在は新暦に合わせ、9月14日から16日にかけて催されている。


例大祭当日の様子＝9月15日、神奈川県鎌倉市の鶴岡八幡宮

八幡宮の創建は康平6年（1063）、源頼義が前九年の役の勝利を祈願して京都の石清水八幡宮を勧請したことに始まる。源頼朝は治承4年（1180）に現在の地へ遷座し、源氏の氏神、関東の総鎮守として崇敬を深め、建久2年（1191）には上下両宮を整備した。また、頼朝のもとで放生会や流鏑馬、相撲、舞楽などが行われ、武家の祭祀文化として今日まで受け継がれている。

また、由比ヶ浜から八幡宮へ延びる約2キロの参道・若宮大路の段葛は、京都の朱雀大路を範に、頼朝が自ら指揮して御家人たちに土石を運ばせて造営したと伝わる。これは鎌倉の都市計画の第一歩であり、妻・北条政子の安産祈願の意味も込められていた。若宮大路は鎌倉の町の中心軸となって発展し、「日本の道100選」に選定されている。

9月から10月、各地の神社で勅祭、例大祭などが行われている（記事は6―7面）＝写真は神奈川県寒川町の寒川神社

天地

国立青少年教育振興機構が9月に公表した「高校生の『文化』に関する意識調査」（日・米・中・韓を比較）によると、日本の高校生の4人に3人（75％）が「自国の伝統文化に興味がある」と答えている。7割近い生徒は、和食や着物、茶道、華道、書道などの「生活文化」に興味があるという。実際に体験したことがあるのは「書道」や「祭りへの参加」（65％超）、「伝統楽器の演奏や伝統舞踊」（45％）などだ▼また、7割の生徒は活動を「学校の授業やクラブなど」で体験していて、「図書館や博物館等の社会教育施設」（10％）など学校以外の割合は他国に比べても低い。ただし、学校でも「地域の伝統文化や芸術を学ぶ活動」「現地調査」などは3割弱にとどまる▼ここでは宗教関係の項目はなかったが、祭りや伝統舞踊などいずれも宗教と深く関わるものだ。宗教施設は学校と共に地域をつなぎ、伝統文化を継承、発信する場となり得る。次世代の成長を支える意味でも、宗教が文化体験の場を作ることは大きな意味があると思う。